

## 第六回 職員専門研修のご報告「考えることの意味と方法」

就労継続支援 B 型 御影俱楽部 船橋知恵

令和 5 年 8 月 28 日（月）、管理職主任を対象とした研修の最終回でした。今回は「考えることの意味と方法」というテーマでした。

まず「自分で考える」という項目について講義いただきました。知識と体験の紐づけについてお話をいただき、自分の経験と照らし合わせてそれをどのように活用するかを考えました。特に「経験を知識化する」という言葉は初めて聞き、かみ砕きながらじっくり考えました。

全員で話している際にも出たのですが、福祉職員には経験を積まれるのが先だった方と、机上の学習（資格所得など）から始まられた方とに分かれます。経験を積んでこられた方は経験の言語化が難しいところがあるということも話題に出ました。

考えを作る、という項目では、基礎知識の重要性とその深堀りの重要性を伺いました。深堀りすることでその経験そのものが将来の役に立つという言葉は、現主任にとって励みになる言葉であるように感じます。

考えの文章化についても、苦手意識を持っている職員の声や、たくさん書いたあと時間を置いてまとめるなど実践的な意見が出て、お互いの経験を共有することができる時間となりました。

最終回だったため、最後に先生への感想を全員で述べさせていただきました。初回に先生がおっしゃっていた「本を読むことの大切さ」は印象に残っている職員が多く、これからもインプットを大事にしようと感じました。また、こうして本部施設に集まる機会そのものが大事だったという声もあり、日頃現場が離れているからこそ大事にしないといけない時間があるとも感じました。

先生からは、ご自身が福祉という領域で働けたことを感謝しているという言葉をいただき、だからこそみなさんもこの領域で、利用者のため、また自分のために経験を積んでほしいとおっしゃっていました。

こうした福祉そのものへの肯定的な言葉は大きな励みになります。あたたかい雰囲気の中、主任集団で福祉観について話し合うことができ、半年間とても大事な時間だったと感じました。今後も自主的な勉強会を持つことが決まりました。これからも学びを継続していくこうと思っています。

